

# 後援会だより

## 親子でつづる法政の4年間

### 卒業に際しての定番



塩谷 寿英  
(文学部)

「感謝しています」「ありがとうございます」「お世話になりました」と、この手の文章では「定番」の言葉を使うことが多くなりますが、それは、人は一人では生きてはいけないことを表している証拠ではないかと思えます。

体育会硬式野球部に所属し地元北海道札幌を離れて寮生活をする上で、何よりも必要であったのは親からの援助でした。お金についてはアルバイトが出来ない環境の中でどうしても親に頼ることにになり、親と離

れてはじめてそのありがたみというものを、身をもって知ることができました。また、正月などの帰省に際しては母親の手料理がこれほどいいものであったのかとしみじみと思うこともありました。「普段ちゃん」と食べているの「野菜は取っているの」などとこの家庭にもあるのだらう言葉もその料理に温かみという味付けを加えて涙を誘うものでありました。

体育会に所属していなくても、地方から上京している学生にとつてはこの意味は分かると思えます。「東京の大学に行きたい」とわがままを言い、今こうしてその大学の卒業に際して思うことは、「両親には感謝しています」「野球を大学まで続けさせてもらってありがとうございます」「4年間本当にお世話になりました」ということです。

きつと、こうした「定番」の言葉を述べる事が出来るようになったのは、それだけの経験をし、人のありがたみを知ることが出来るまでに成長した証なのだと思えます。

卒業式に武道館から法政までの道の桜を背景に田舎者の母と都会ぶっている私の写真をぜひとりたいたいと思っています。

「何でも最後までやり遂げることを教え、3歳からピアノ・水泳・スキー、小学2年生より野球を始め、すべてやり抜きました。親としてあなたと共に行動した日々は、楽しくもありながら厳しくしたことも何度もありましたが、何事にもめげず良く乗り越えてきた精神力に「褒めてあげたい」と「ありがとうございます」を言いたいです。



明治神宮にて4年生記念写真(筆者後方右から5番目/2011年10月30日)

### 自分を信じて夢叶う日まで頑張ろう



塩谷 三枝子

法政大学の校歌・応援歌をピアノで弾きながら大きな声で歌っているあなたの声が脳裏から離れません。この4年間野球部での寮生活は、過酷で厳しい毎日でしたがあなたは乗り越えました。これから社会人として、どんな困難なことも絶対やり抜けることを確信しています。希望と夢に向かい邁進することを望みます。

「感謝をこめて息子へ」



岡崎 久美子

### 音楽とともに過ごした4年間



岡崎 拓也  
(理工学部)

私は理工学部電気電子工学科で4年間学びました。大学生活は勉強、サークル活動、アルバイトと、とても充実していました。特にサークル活動は私の学生生活の中心であり、多くの時間を費やし楽しく過ごすことができました。

私が入ったサークルはマンドリンクラブで、このサークルに入るまで、小、中学校の音楽の授業の時くらいしか楽器に触れる機会がなかった私にとっては、マンドリン

というのにはすべてにおいて新鮮な楽器でした。アルバイトで貯めたお金で自分のマンドリンを購入して初めて弾いたときの感動は忘れられません。上手く弾きこなせるようになるにますます夢中になっていきました。1年に2回、春、夏の合唱、秋の定期演奏会、春の他大学とのジョイントコンサートと私の年間スケジュールはサークル活動を中心に決まっていたようなものでした。他大学との交流はとても刺激になりました。私の向上心を引き出すのに役立ちました。秋の定期演奏会は4年生の引退も兼ねており、3年生までは先輩方を見送り、今年は見送られる側となり、いろいろな出来事が去来し、花東贈呈では思わず涙が出てしまいました。楽

譜も読めず、マンドリンの持ち方など、一から指導してくれた先輩方、一緒に練習し、つらい時も楽しい時も過ごした仲間達、このサークル活動で得たいろいろなものの中には私の中の宝物となっています。大学卒業後もマンドリンと関わりを持ち続けられればと思います。



三鷹市芸術文化センター風のホール、第47回定期演奏会にて(2010年11月19日/左が筆者)

卒業おめでとう。4年間の学生生活の中で、3年生の夏に父親を病気で亡くすというつらい目に会いましたが、勉学に励み、アルバイトをし、サークル活動に参加し、とても充実した日々を過ごしたことと思います。悲しみ嘆いている私の側について支え励ましてくれたことに感謝し、息子がとてもたのしく成長していたことを実感しました。春からは大学院で学ぶことになっていますが2年間、希望の分野の勉学に頑張ってくださいと思います。

## 人との出会いの大切さ



志田 華子  
(経済学部)

大学生活は多くのお出会いがあり、多くの方に支えられ、多くのことを学びました。今まで、「挫折」という経験をしたことが無く、就職活動を通して初めて経験しました。大学4年の後期になっても内定がもらえず、就職活動を続けていました。何度も面接を受け、良いところまで進んでも、届くのはいつも不採用のメール。何をやっていくのだろうと何度心が折れたことか。そんな時、励ましの言葉をくれた人達、電話でいつも励ましてくれる両親。どんな時

間でも相談にのって、次に進むチャンスを与えてくださったキャリアセンターをはじめ大学職員の皆さまや、ゼミの水岡教授がどんなに支えになったのかわかりません。そして多くの方々のおかげで無事、内定をいただくことができました。この就職活動で学んだことは、人との出会いがどれほど大切で、いかに多くの方に支えられて生きているのかということです。

私が内定をいただくのが遅れた理由はさまざまあると思いますが、まず一つとして自分の頑固な性格が良くなかったと思います。頑固な性格のため、自分で「こう」と決めつけ、自ら進んで動くとはしませんでした。決めつけず色々動いていたら、どんなに早く内定をいただけたでしょうか？と後悔しています。

## 私を成長させてくれた4年間



高橋 利奈  
(人間環境学部)

法政での4年間は本当にあっという間でした。私は「法政大学で過ごせて良かった」と卒業を目前にした今、心から思っています。大学生活を振り返るといつも仲間の存在がありました。共に学び、たわいもないおしゃべりを何時間もし、笑いあい、そして悩み事も相談しあえました。さまざまな個性を持った人々に囲まれてたくさん刺激を受けました。そんな仲間がいたからこそ私は充実した4年間を過ごすことができました。

ました。大学で出会えた仲間は私の一生の宝物です。

また一人暮らしをして、家族の大切さを感じる事ができました。実家暮らしの時とは違い、家事など何もかも自分でしなくてはならないので最初はとても苦労しました。そして、今までそのように苦労して育ててくれた両親のありがたさが身に染みましました。両親と離れて暮らすことで、いかに私のことを心配してくれているのかを感じることができました。ずっと実家で暮らしていたらそのような大切なことを当たり前だと思っていたかもしれない。上京して一人暮らしをしたことも私にとって非常に良い経験になりました。

ほかにもカンボジアのボランティア

これから社会の中で、この大学生活で学んだことを教訓にし、自分でこうと決めつけず、自ら進んで行動することを常に心掛け、行動し、日々精進して行きたいと考えています。



インスタントラーメン発明博物館(横浜)  
(2011年9月18日)

アーに参加したことや、アルバイトで働くことの楽しさと大変さを学んだことなど大学生活での経験は書ききれませんが、この4年間で出会い、お世話になったすべての人に感謝しています。春からはこの感謝の気持ちを大切に大学生活で学んだことを忘れずに、社会人としての一歩を踏み出したいと思えます。



友人とのサイパン旅行にて  
(2011年11月30日/右から3番目が筆者)

## 大好きで、大切な、頑固者の華子へ



志田 慎二

法政大学後援会に携わり、娘と一緒に大学を卒業するようなアツと言う間の4年間でした。

幼いころからコツコツとする子でしたが、最近では母の頑固者、無理は禁物ですが「石橋だと思ったら叩いていないでどんどん渡ればいい」そして「失敗する自分より、真剣でない自分」に気付けるように、人との出会いを大切に頑張ってください。

## 素敵な経験を大切に



高橋 猛夫

法政に進学したいと告げられたことがつい昨日の日のように思えます。都会の一人暮らしに憧れ、その夢を実現し4年間でかけがえのない体験をすることができたことでしょう。友と語り、人生を考え、多くの発見をしたことと思います。社会に羽ばたく最終助走段階をこの大学で過ごせたことに大いに感謝すべきです。これからその真価が問われることとなります。身に付けた知識や生きる力を更に向上させ、納得のいく人生を歩んでください。

## 自転車競技と感謝の気持ち



まえかわ こうだい  
(経営学部)

法政大学での4年間は、さまざまな人に支えられ、さまざまな経験をし、さまざまな人に感謝する4年間でした。法政大学には、スポーツ推薦で入学しました。当初はやっていけるか不安もありましたが、大切な仲間ができ、共に励ましあい、ここまで来ることができました。

自転車競技部は、一昨年に事故を起こし1年間活動停止の処分を受けました。その間部全体、自分自身を考えることができいい経験にもなりましたが、正直練習できず、目標を失い、先輩は試合に出場しない

まま卒業となりという状態でした。

しかし4年になり部活動が再開した時には先輩達の秘めたる思い、練習できる喜びを感じられ、私自身も成長を感じました。

まず先輩を第一に、次にチームの事を考えました。先輩達には絶対にあきらめない姿勢を常に見せ、伝えました。また練習は一番はじめ、最後に終わりました。そうすることにより先輩の調子も見ることができ、自分の練習にもなったからです。

個人種目が主な競技ですが、団体種目もあり昨年のインカレで出場しました。そこでは成績・順位よりもほかの大学に負けなかったことがチームワークでした。競技直後に自分が育てた後輩、チームワークのすごさに感動して涙がでました。

引退後には後輩より「先輩のおかげでい

い走りができ成績が残せました。」と言われ自分がしてきたことが間違いでなかったことを感じホッとしました。

これからは次のステップであるプロの選手になれるよう努力します。



長野県松本かりがね自転車競技場にて、団体追抜きのスタート直前(2011年9月2日/一番右が筆者)

## チャレンジ



まえかわ ひろみつ  
前川 広充

東京へ送り出す日、見送る家族に振り返りもしないで旅立ったあなたの覚悟が懐かしく思い出されます。あれから帰省のたびに成長の証を垣間見ることができ、家族で感心したものです。

いよいよ社会に踏み出すわけですが、道のは長いけれど常に志を高く持って、素直な心で何事にも挑戦してください。努力すれば必ず道は開けます。これまで支えてくださった師、出会えた良き仲間の皆さまへの感謝を忘れず、夢の実現に向けチャレンジ。

## 留学の思い出



ささき あずさ  
(文学部)

1番の思い出は、英文学科の留学制度を利用して、2年生の夏休みにアイルランドへ行ったことです。普段、家で過ごすことが好きな私ですが、同じサークルにいた英文学科の先輩のアドバイスで留学を決めました。

アイルランドでは、小説家・詩人のジェイムズ・ジョイスの作品の世界にふれたり、歴史を肌で感じることができました。授業では、英文の文法や読み方を学んだ

り、アイルランドの歌を聞いたりしました。英語も文化も学ぶことができるプログラムでした。同じクラスには、スペインやイタリアから来た様々な年齢の人がいました。癖のある発音はなかなか聞き取れませんでした。癖のある発音はなかなか聞き取れませんでした。癖のある発音はなかなか聞き取れませんでした。

のだったのは、日本人同士でも英語で会話していたICUの方々でした。

ホームステイ先では、大変よくしてもらい、初めての留学がとても充実したものになりました。

そして帰国後、アイルランドが大好きで、ジョイス研究の第一人者である結城英雄教授のもとで2年間、学ばせていただいたことは本当に貴重な経験になりました。



ダブリンにて、ジョイスの像の前で(2009年8月20日)

した。先生の解説を聞きながら、ジョイスが歩いた道を自分も歩いたと思うと感慨深かったです。

環境にめぐまれた4年間を過ごすことができ、本当に幸せです。法政女子高校から7年お世話になった法政を卒業することは寂しいですが、社会に出てさらに成長していきたいです。

## 卒業おめでとう！



ささき あずさ  
佐藤 香

あずさ、卒業おめでとう！バスケットに熱中していた高校時代にくらべて、大学生活を燃焼できないのでは、と心配した時期もありました。そんなあなたに対する見方が変わったのは、就職活動に励む姿でした。何社落ちても文句の一言を言わず、ただひたすら挑戦し続ける姿には、我が子ながら頭が下がる思いでした。

ついに内定をいただけた時の感動は宝物です。社会人としてお世話になった方々への報恩の思いで、精一杯力を発揮してください。どこにいても心から応援しています。母より



# 体育会応援13 【馬術部】 親からのメッセージ



中島 りこ  
（大介/経済学部）

私の息子は、男三人兄弟の三男です。

兄達もサッカーやラグビーをしていましたが、息子が乗馬を始めましたきっかけは、小学校4年生のころ、伯父親子の乗馬の練習に付いて行ったその時の伯父の「お前も馬に乗ってみないか？」の一言で始まりました。

ある日伯父が経営する会社の敷地内に手作りの練習場を作り従兄と一緒に練習させてもらう事になりました。

そして息子自身、馬に対する気持ちがとても強くなり、法政大学馬術部OBの伯父の指導のもとで練習が始まりました。

その時から私と息子は、中学3年まで日々の生活と練習を二人三脚で過ごしてきました。その貴重な期間は、親子関係の絆も育む大切な時間でした。また、一般の乗馬クラブとは違い、練習前に本人が馬場の整備、馬具の手入れ、馬装準備、馬房清掃、馬体および健康管理などのすべてを行っていました。

中学校時代は、愛知県私立名古屋学院・名古屋中学校で、従兄の大学進学を機に、一日も休

む事無く、伯父とのマンツーマンの練習が始まりました。

確かに悩み苦しみも尽きない日々でもありましたが、やはり息子自身馬好きでしたので、伯父の厳しい練習を通して沢山の壁に当たりながら越えるまでの練習は、弱音も吐かず一生懸命に取り組んでいました。

その甲斐あって中学3年のころには、全日本ジュニア総合馬術大会3位の成績を取める事ができました。

苦難は多くありましたけれど、人馬一体の姿がとても頼もしく映りました。

そしてそのころから息子自身も尊敬している伯父と同じ法政大学の馬術部へ進む事を強く望むようになりました。

高校時代の名古屋学院・名古屋高校馬術部では、顧問の(故)杉野先生および高橋先生を始め伯父も名古屋学院馬術部OBというなかでの引き続きコーチとして指導を受けていました。1年の時には、総合馬術ジュニアライダー・オーストラリア強化合宿の貴重な経験をさせていただきました。

そして全国高等学校馬術大会、全日本高等学校馬術選手権大会も出場しました。



山梨県での全日本総合ジュニア馬術大会(故)アイルオブ・アラントとともに(2005年7月)



従兄と小学校4年の時、アークスティック号とともに(2001年)



平成23年度全日本学生馬術大会(馬名チェンパレン号/兵庫県三木ホースランドパーク)

伯父の「どんな馬にも対応出来る力を備えなければ法政大学では通用しない為、厳しく技術を身に付ける」との指導方針から、手厚い指導を受けていました。

進学時には、コーチである伯父を通して法政大学馬術部の方から大学入学のお話をいただきました。息子自身は、きつと今までの辛い練習から喜びに一転した瞬間でもありました。

現在馬術部でご指導して下さる、五明部長先生を始め日々息子を支えて下さいます方々に深く心より感謝いたします。ありがとうございます。

生活面では、やはり生きた動物あつてのスポーツですので、毎日時間の許す限り馬房待機し、後輩達と時間調整をしています。

そして馬体の健康管理、施設管理、馬房清掃、馬具の手入れなどを後輩達と共にしています。

また、後輩達の気持ちを汲んで練習指導に励んでいます。

そしてわずかな時間に息子自身の大会での幾つかの課題に取り組んでいます。

今年度の試合成績では、関東学生大会(12月3位)全日本学生大会、全日本学生選手権大会(12月5位入賞)を獲得させていただきました。

今後の息子に願います事は、馬術部で培った多くの経験およびお世話になりました方々へ感謝の心を託し、来期主将として自覚と責任を踏まえて後輩達に素晴らしい経験をさせられるよう、息子自身のため努力と共に、自身の人生における向上心を望んでいます。

## 後援会ホームページのご案内

URL : <http://www.hosei-koenkai.org/>

また、法政大学のホームページを聞いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。



## 「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、アメフト甲子園ボウルや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人一人の力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きます。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。

[koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp](mailto:koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp)

